スタメン®フロアブル

■種 類 名：イプフェンカルバゾン水和剤
■有効成分：イプフェンカルバゾン ---------- 3.9%
■化管法指定物質：イプフェンカルバゾン［第１種］ ---------- 3.9%

■登録番号：第24759号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2023.03.22
■性　　状：類白色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：3年
■包　　装：500㎖×20本

【特長】

- 有効成分イプフェンカルバゾンがノビエの発生を長期間抑え、一年生広葉雑草にも効果を示す。
- 植代後～移植前７日又は移植当日～ノビエ１葉期の幅広い時期で使用できる。
- 移植前、移植後のいずれの処理でも水稲に高い安全性を示す。

【適用内容】（2024 年 11 月末日現在）

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ｲﾌﾟﾌｪﾝｶﾙﾊﾞｿﾞﾝを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 マツバイ	植代後～移植前７日 又は 移植当日～ノビエ１葉期 但し、 移植後 30 日まで	500 ㎖/10a	１回	原液湛水散布 又は 無人航空機による滴下	２回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 使用前に容器をよく振ってから使用すること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの１葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。マツバイは発生前までが本剤の散布適期である。
- 苗の植え付けが均一となるよう、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 本剤を移植前に使用する場合は、代かき、均平化作業後に使用すること。
- 移植当日に使用する場合は、移植後に使用すること。
- 散布に当っては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも３～４日間は通常の湛水状態(水深３～５㎝)を保ち、田面が露出しないようにすること。散布後７日間は落水、かけ流しはしないこと。
  自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ◆ 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - ◆ 滴下にあたっては散布装置のノズルを取り外すこと。
  - ◆ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他の装置の十分な点検を行うこと。
  - ◆ 隣接するほ場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないこと。
  - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - ◆ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - ◆ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深２㎝／日以上）
  - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
  - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 活着遅延が生じるような異常低温及び寡照条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 著しい多雨条件では、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
  誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
  作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
  無人航空機による滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
  散布後は水管理に注意すること。
  散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。